

各セクションの報告・情報

THE : 現場

おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと

～新商品の誕生！！～

おかし屋ぱれっと&工房ぱれっとの
コラボレーションで、この冬新しい商品が
生まれました。その名も「ハッピーハート
きんちゃく」。

工房ぱれっとのメンバーが作る「らぶ
らび」等のぬいぐるみは、見る人を和ませ
思わず笑顔にしてしまう、何とも魅力的
な表情をしています。ひとつひとつ異
なるその魅力を生かし、ハートの形をし
たマスコット付きの巾着袋を作りました。
そこへ素材の風味豊かなおかし屋ぱ
れっとのクッキーが2袋入っています。

人と会うことに制限があるこのご時世、
大切な人を想い贈り物をする際に、ハート
の温かさを伝えたり心の距離を縮め
たりするのに一役買うことができないか
な？と考え企画されました。その製作
現場をお伝えします。

●アップサイクルで魅力ある商品に変身！

巾着袋とマスコットの材料には、
地域の方に寄付していただいた布地を
使用しています。不用品を別の新たな
形で生まれ変わらせ、そのモノの寿命
を引き伸ばすことを「アップサイクル」
と言い、リサイクルやリユースと並び、
環境に負荷をかけない一つの方法とし
て注目されています。工房に集まってき
た布地は不用品だからこそ色や柄がバラ
バラなため、工房のメンバーの手により
一つの製品として組み合わせさせた時に思
いがけない新鮮な面白味が生まれます。

工房のメンバーからは「らぶらびと比
べて、小さいから難しい」という声も聞

かれましたが、細かく手縫いのステッチを
して様々な表情を仕上げてくれました。



【キュートな表情の
ハートたち】

●ミシンに挑戦！！

巾着袋のミシン縫製を担当した榊川
里徳さんは、「返し縫いをずれないように
するのが難しかった。できあがった
巾着袋を見て、自分も作れるんだ、す
ごいと思った」とのこと。どんな人に使
てもらいたいか尋ねると「子どもとお母
さんに一緒に使ってもらいたい」と語っ
ていました。



【縫い始めと
終わりは慎重に】

●情報発信も強化しています

今回、前田理事らの協力のもと、お
かし屋ぱれっとから初めてプレスリリ
ース（報道関係者への情報配信）も出しま
した。販売会で直接お客様に商品を
紹介することが難しい現状の中、こう
した場所で広く発信することで、また新
たなチャンスが舞い込んでくるのではな
いかと期待しています。（たまい）



たまり場ぱれっと

～今年のアースデイは…～

毎年参加してきた「アースデイ」。昨年はコロナウィルスの影響で不参加になってしまいましたが、今年は何等かの形で参加できないか、と検討しています。たまり場ぱれっと新職員の宇高さんから報告です。『2月17日（水）にアースデイ2021のミーティングに参加してきました。今年実施場所を従来の代々木公園から宮下パークへ変えて、ファッションの聖地渋谷を中心に表参道～原宿までもエリアに含み実施したいとのことで、「ぱれっとでも何か一緒にやりませんか」とお声がけいただきました。三密を回避するためにエリアを広範囲にしたり、一部オンライン企画を盛り込むなど、一生懸命に企画を検討されている様子に新しいコミュニケーションの形が生まれそうでワクワクしました。』（たかむら）

ぱれっとホーム

～休日の一コマ～

ホームで過ごす時間が多くなっている最近のしぶや・ぱれっとホームでは、家の中でできる遊びを楽しんでいます。しぶや・ぱれっとホームではリビングのテレビでYouTube鑑賞をする姿がよくみられます。藤原さんに好きな動画を聞いてみました。「歌謡曲の鶴岡雅義と東京ロマンチカが好きです。あとは競馬の（昔の）G1レースをみて楽しんでいます！」写真は坂本貴代美さんがアルバイトさんと一緒に作ったカップケーキで、盛り付け等を楽しんで作っている姿が印象的でした。ちょうどバレンタインの時期でもあったので、皆でおいしくいただきました。（いいやま）



ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)

～モンゴルからの研修生受け入れ延期～

去る2月8日（月）、久しぶりにモンゴルのAPDC（Association of Parents with Differently-abled Children：モンゴル障がい児親の会）理事長のアユシュさん、事務局長のセレンゲさんとオンライン国際会議を開きました。テーマは現地スタッフを日本に招いて行なう研修プログラムの実施時期について。昨年3月、開催直前にコロナウィルスにより延期を決め、今年3月の開催も検討しましたが、やはり日本、モンゴルともに行き来できる状況ではないという判断で、再び延期に。モンゴルでも、就労支援の現場が全く稼働できず、スタッフを減らさざるを得ない事態が続いているとのことでした。とにかく、一日も早く収束し、平和な毎日が戻ることを切に願います。（みなみやま）